



# けー じょう 開 鐘



組踊「執心鐘入」

## 開鐘…とは

開鐘とは、琉球王国時代に三線の名器に与えられた尊称である。五開鐘・十開鐘があり国王や王朝貴族が重宝したという。その由来は、夜明けのあけむつ(午前6時)につく寺の「百八の鐘」のことを開静鐘といったことから名付けられた。その音色ははるかかなたまでよく響きわたり、聴く者を魅了し、共鳴させたという。1803年に即位した尚灑王の琉歌に「世界や暗闇かおぞむ人もをらぬ、や

がて開静鐘ぬなゆらやすが」とある。外国船が沖縄に姿を見せはじめ、開国が目前に迫っているのに誰も気づく者がいないと嘆いている。卓越した感性の持ち主である。本学も開鐘のごとく沖縄の未来を切り拓き、世界に向かって飛躍していく拠点になることを願い、情報発信源たる広報に「開鐘」とうタイトルを付した。

## ～ 目 次 ～

学長あいさつ	2	卒業・修了生 主な就職先	8
新任あいさつ	2	国際交流	9
新部長あいさつ	3	留学生名簿(受入)	9
人事往来	3	留学生紹介	9
美術工芸学部/各専攻近況	4	同窓会ニュース	9
音楽学部/各専攻近況	5	学内ニュース	10
全学教育センター近況	5	沖縄県立芸術大学振興財団ニュース	10
大学院近況/修士課程	6	退任あいさつ	10
附属研究所近況	7	オープンキャンパス案内	11
附属図書・芸術資料館近況	7	平成25年度公開講座案内	11
助成金獲得状況	7	展覧会情報	12
受賞者状況	8	演奏会案内	12

## 芸術文化の継承と新たな創造を!



本学が伝統文化の薫り高い古都首里に開学してから、27年目を迎えました。

一昨年は首里崎山キャンパスが開設され、美術工芸学部彫刻、デザイン、工芸の3専攻が新たな施設に移転し、昨年より漆芸分野が開設されました。さらに、海外の姉妹校も増え、ハード面、ソフト面での教育環境も図られています。

昨年9月には、女子美術大学と本学との間で教育・学術交流協定を締結いたしました。首都圏と沖縄という環境の大きく異なる大学が、単位互換プログラムや交流展を通して、学生・教員

の制作・研究活動にも、新たな刺激や広がり展開されることを期待します。

また、本学美術工芸学部においては、学生による地元や企業との特産品の開発等、産官学連携事業が積極的に実践されています。音楽学部においては、舞台研究発表やコンクール等を通して、芸術力を内外に発信しています。

今後とも、新しい文化芸術の創造を目指し、学生・教職員が一丸となり邁進してまいります。

平成25年5月15日 学長 佐久本 嗣男

### 新任あいさつ

4月より工芸専攻染分野に着任します。私は沖縄の日本復帰一年目の受験生として上京しました。その頃の沖縄には美術デザインの専門学校もなく、美大のイメージすら上手く描けないまま受験した世代ですので県立芸大の開学は感慨深いものがありました。その私が時を経て教え伝える立場になります。教師としての経験がない事に不安はありますが、20代で関わったファッション産業、30代から紅型を学ぶことで広がった工芸の世界、その全ての縁が

今年度より美術工芸学部工芸専攻(漆芸分野)の教授として着任いたしました。これまで、沖縄県の試験研究機関である商工振興課工芸技術支援センターで23年間、漆に関する試験研究・製品開発、工芸技術者の後継者育成、企業への技術指導・支援にあたっております。昨年、念願であった漆芸分野が開設されたことを心よりうれしく思っております。沖縄は、高温多湿で一年通して漆芸ができる非常に適した気候風土です。この地域特性を活かし、他の大学にはない沖縄独特の技術・技法を学べる大学にするために、今までの研究成果を活かし学生のために力を尽くして指導すると

4月より、音楽学コースで民族音楽学を担当しています。戦前、沖縄からの移民が多かった旧南洋群島各地を訪ね、踊りや歌の研究を始めて30年近くになります。日本統治時代に現地では日本語教育が行われ、日本の流行歌の影響を受けた日本語混じりの歌や、西洋風の行進踊りが盛んに行われ、一部は沖縄にも伝えられています。サイパンでは、当時沖縄芝居が上演されていたことが記憶されており、パラオでは沖縄系の情報提供者から多大なご協力

4月より音楽学部(全学教育センター)に着任いたしました。1999年にはじめて沖縄に来て以来、これまでの間、琉球・沖縄の歴史を勉強してきました。本学では、総合教育科目の琉球史を中心に日本史や東洋史など歴史学の分野を担当します。

首里城のお膝元で琉球・沖縄史に関する教育・研究に携われる幸せを沸々と感じております。すばらしいロケーションのなかで、学生とともに学びながら、わたしの経験や研究が学生のために意

本年度より絵画専攻の助教として着任しました。これまでは本大学で非常勤講師等として学生達の指導にも携わってきました。専攻との関わりの中から多くのことを学ばせていただきました。その経験や知識を生かし、より一層教育や研究に励みたいと思います。この沖縄という様々な事柄が交錯する場所で考えることの重要性や沖縄ならではの視点から社会を見つめ直し、学生と共に知識をシェアし、考えていきたいと思ひます。また、美術教育も

私を育ててくれて導いてくれたと思っています。その経験と知識、それと情熱を学生に伝えることが私の役目と自負しています。沖縄で学ぶことの意義を共に深めていけるよう私自身も日々研鑽していきます。よろしくお願ひ致します。



工芸専攻 教授  
渡名喜 はるみ

ともに、さらに日本漆芸を学ぶことによって、沖縄の漆芸発展に貢献できるように努力して行きたいと思っております。まだ不慣れな点もありますが、学生たちと共に感性を磨き、創造力を高め優れた作品を製作できるよう指導していく事と、将来の事を見据えて、学生たちが人間力のある人に巣立っていくよう教育していきたいと思っております。宜しくお願ひいたします。



工芸専攻 教授  
糸数 政次

を得ています。着任をきっかけに、那覇をベースとして南洋関係の資料収集や南洋に縁のある方々へのインタビューをするなどし、沖縄と南洋の音楽交流に関する研究を進展させたいと思ひます。



音楽学専攻 教授  
小西 潤子

義あるものとなるよう尽力していきます。



全学教育センター 講師  
麻生 伸一

社会の状況から変化の必要性があるところは教職員の皆様と連携しながら柔軟に対応し、それと共に現代の芸術表現の可能性を探りたいと思ひます。

微力ながらも本学の発展に貢献できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



絵画専攻 助教  
山城 司雄

## 新部局長あいさつ

今年度より大学運営の一端を担う重要なお役目を頂きました。音楽学部創設時からピアノコースの一教員として今日まで20数年経過してきました。長年経過してきたからこそ見えているべきものが見えなくなっている事があるかもしれません。新たな意欲高らかに入学された学生さんからも刺激を受け一期生のつもりで頑張ります。これまで作り上げた音楽学部の良い足跡は大切に、そのうえで今取り組むべき課題には気力体力が続く限り前進して

いきたいと思います。そのためにも、学生さんの生の声を聞きたいです。責任ある発言を寄せてください。私ども教員はそれを真摯に受け止め、よりよい環境作り努めてまいります。どうぞよろしく願い申し上げます。



音楽学部長  
糸数ひとみ

数年前から、日本の大学教育は、学部教育から大学院教育へと、専門教育の強化、充実化を重要視する方針に変わりつつあり、教育機関や官公庁、企業でも大学院教育を受けた人材を求める状況が増えてきています。大学院は、専門分野における知識をさらに高めていくとともに研究テーマを徹底的に探究できることが、一番大きな魅力です。

本学、音楽芸術研究科では、少人数の学生数で、教員のきめ細

かい濃密な指導が受けられます。演奏技術、知識を深めるだけでなく、豊かな音楽観、感性を磨くとともに研究手法を学ぶことで分析力、洞察力が培われるなど、学部時代よりさらに一回り大きく人間的にも成長します。今や、大学院はお勧めです！



音楽芸術研究科長  
比嘉 康春

附属研究所がこれまで行ってきた伝統工芸・伝統芸能・芸術文化の三部門における研究・教育・地域貢献事業をより強固、かつ広範に展開していきたいと思っております。特に、軌道に乗ってきた移動大学は本学の地域貢献の柱となるものです。将来にわたって維持・継続されるべき事業と位置づけられるよう、両学部の協力も仰ぎながら取り組んでいきたいと思っております。また、市民から高い評価を得ている公開講座・文化講座は、さらに質量共に充実し

たものとなるようにしたいと思います。更には、本学における教育・研究を基礎として、琉球・沖縄の芸術・文化研究の拠点となることを目指して、他大学の研究機関との交流・提携を進めて行きたいと考えています。



附属研究所長  
波照間 永吉

前任者の功績が素晴らしく、後任としましては、まず継続事業から、精一杯取り組んでまいりたいと思っております。附属図書・芸術資料館資料購入予算の確保、返却に関する規定、学術機関リポジトリの構築さらに、図書館・視聴覚室・芸術資料をいかに一般県民にも活用していただけるか？皆様方のご意見、ご協力を仰ぎながら、ひとつひとつクリアして行けるよう努力致します。また、重要無形文化財の管理について文化庁から正職員の学芸員による

管理が好ましいと指摘を受けております。ぜひ、行政側にはご検討の程宜しくお願い申し上げます。最後に、首里城眼下にあり芸術探求に最適な静かな環境で読書してみませんか！スタッフ一同お待ちしております。



附属図書・芸術資料館長  
島袋 君子

大学は言うまでもなく学生が中心でなければなりません。小規模な本学でも、学士・修士・博士課程、研究生、留学生、科目等履修生など様々な形態の学生が学んでいます。これら全ての学生が尊重され、自らの意思で学べる環境を整備し、また時代に合わせて改善していくのが私たち職員の責務でしょう。学問と教育の自由をもっとも体現すべき機関としての大学、中でも個性の伸長が根本になければならない芸術大学においては、より多様性を認

める学風が大切です。一方、組織としての大学は他律的な評価や競争原理の導入が求められます。それでもその目的は、他ならぬ本学に籍を置くこれら全ての学生のためであることを胆に銘じて、大学改革の方向性を考えたいものです。



学生部長  
波多野 泉

## 人事往来

### 新部局長 H25.4.1

音楽学部長	糸 数 ひとみ
音楽芸術研究科長	比 嘉 康 春
附属研究所長	波照間 永 吉
附属図書・芸術資料館長	島 袋 君 子
学生部長	波多野 泉

### 評議員 H25.4.1

学長	佐久本 嗣 男
美術工芸学部長	北 村 義 典
造形芸術研究科長	平 山 英 樹
音楽学部長	糸 数 ひとみ
音楽芸術研究科長	比 嘉 康 春
附属研究所長	波照間 永 吉
芸術文化学研究科長	柳 悦 州
附属図書・芸術資料館長	島 袋 君 子
学生部長	波多野 泉
事務局長	比 嘉 靖

### 評議員 H25.4.1

美術工芸学部選出	田 中 睦 治
	ルバース・吟 子
	丸 田 勉
音楽学部選出	金 城 厚
	佐久間 龍 也
	豊 田 喜代美

### 採 用 H25.4.1

教 授	渡名喜 はるみ(工 芸)
教 授	糸 数 政 次(工 芸)
教 授	小 西 潤 子(音楽学)
講 師	麻 生 伸 一(全 学)
助 教	山 城 司 雄(絵 画)
助 手	深 水 沙由理(工 芸)
助 手	西 條 智 之(声 楽)

### 定年退職 H25.3.31

教 授	西 村 立 子(絵 画)
教 授	島 袋 常 秀(工 芸)
教 授	吉 田 匡 廣(工 芸)
教 授	板 谷 徹 (音楽学)
教 授	安 里 進 (全 学)

### 普通退職 H25.3.31

助 手	崎 原 克 友(工 芸)
助 手	大 城 伸 悟(声 楽)
主 任	知 念 弘 恵(事務局)

## 美術工芸学部／各専攻近況

### 絵画専攻

絵画専攻では、昨年9月より3年間をかけて那覇市立病院と共同して、院内に100点の学生と教員の絵画・版画・写真などを展示するコラボレーション・PROJECTを行っています。このプロジェクトは、病院という医療公共空間において、芸術作品によるホスピタリティ（おもいやり、心からのもてなし）空間創出の効果を確かめる共同研究の一環として行われ、医師・看護師・患者さん・医療関係者の皆さんとコミュニケーションをはかりながら、一緒になって進めています。現在は病院中央棟一階廊下と検診センターで展示していますが、本年春からは、それぞれの診療科ニーズに応じて、休憩室や廊下に展開していく予定です。今

後はワークショップなども行い、医療と芸術の関わりを市民の皆さんとともに高めてまいります。



### 彫刻専攻

昨年の彫刻専攻の活動としてまず取り上げたいのが、崎山キャンパス彫刻棟にできた大学院演習室を大学院及び若手スタッフの発表の場として、また、特論などで来ていただいた彫刻家の作品紹介のギャラリーとしてスタートしたことです。オープニングを飾ったのは彫刻家の海崎三郎先生、小作品とドローイングを展示し、多くの学生が鑑賞しました。その後、安藤栄作先生、中瀬康志先生、津田亜紀子先生などの現在活躍する彫刻家の展覧会を開催し、学生への教育的効果も大

きと感じております。大学院生や助手、非常勤講師の研究成果も個展形式で発表され好評を得ております。

また、北中城村との連携事業「彫刻カジマヤー計画」も作品が90点を超え、来年10年目を迎え目標の97点になる予定です。多くの方々に支えられたこのプロジェクトも次回で大きな区切りを迎えるにあたり、これまでの活動をまとめた冊子を作る予定です。

### 芸術学専攻

芸術学専攻で毎年10月に開催する「教養講座」も今年で8回を迎えました。次年度以降も専攻教員の専門を活かし、一般の皆様のご期待に添えるように努めてまいります。

また昨年度は本専攻の土屋誠一講師主催の「現代アート研究会・沖縄」が3回開催され、学生が最前線で活躍する現代芸術家の活動に触れる多くの機会を得る事ができました。

学生の活動としては、3年次の居村匠君の芸術批評活動が地元紙に取

り上げられ、また同じく3年次の太田晶君が地元紙に展評を寄稿しました。

芸術学専攻で運営する専攻のウェブサイトでは、常に芸術学専攻の最新の情報を掲載していますので、本専攻にご関心のある方は以下のURLにアクセスしてご覧ください。

<http://www.okigei.ac.jp/geijutsu/Welcome.html>

### デザイン専攻

今年もデザイン専攻では多くの学生たちが社会との連携を深め、活躍しました。

デザイン専攻2年生の今年の授業「ふるさとの特産品開発」では与那原町を取り上げ、5グループに分かれて特産品を開発、町の産業である赤瓦を利用したアロマプレート「ゆなかば」や、地域にかつてあった軽便鉄道を回帰するレストランの企画「よなてつ」などを提案し、学内外で展覧会を行いました。

さらに今年も2年生の有志（富田セス、森川杏、山口安紗美、黒潮かんな、田代志乃、小波津有依）で、沖縄ファミリーマート主催の「学生プロデュース」の弁当を開発、ベストパフォーマンス賞に輝き、3年生の有志「チーム伊是名」（石川めい、末吉由佳里、稲副勇巳）は伊是名漁協の商品「島自慢のもずくキムチ」のパッケージデザインを担当しました。

またデザイン専攻では以前から留学生の受け入れに積極的ですが、今年には沖縄県費の留学生（アンリ・ツカヤマ）をボリビアから、ドイツ・ブレーメン芸術大学からの姉妹校交換留学生（ヤスミン・アッター）の2名を受け入れました。

最後に本専攻は就職を意識した分野ですので、多くの学生が就職しますが、近年の社会状況を反映してか、大学院への進学が増えており、2012年度は4名（本学、東京芸大）、2013年度は2名（本学）の学生が進学しました。



### 工芸専攻

工芸専攻は、平成24年度から新たに漆芸分野が加わり、染分野、織分野、陶芸分野の4分野でスタートしました。今後も地域や伝統と関わりながら、社会に貢献できるよう取り組んでいきます。

工芸専攻陶芸分野の島袋常秀教授、染分野の吉田匡廣教授の退任記念展が、2013年1月9日（水）～1月17日（木）の期間で、本学附属図書・芸術資料館2階展示室で開催されました。島袋教授は、染付けや赤絵などの伝統的な表現を基本にし、現代に通じる多彩な焼き物を制作してきました。吉田教授は、糸目友禅技法で、自然を絵画的に着物や屏風などに染めてきました。それぞれの作家としてのあり方、円熟の技と個

性を感じ取れる内容の展覧会で、工芸を学ぶ学生への示唆と、多くの刺激を与えました。



### 共通造形センター近況

センターは、写真・版画・木工・金属工房の運営の他に、学部1年次の造形基礎を始め、自由科目等の授業への関わりや、卒業・修了作品展の運営や図録作成支援など、各専攻分野の境界を越え、横断して活動する必要がある役割を果たしています。平成24年度は、夏休みの高校生サマースクール、公開講座を実施して大変好評でした。卒業・修了作品展では1,500名を超える来場者がありました。学外の活動では、「第36回沖縄の産業まつり」に「産学官技術連携展」の一部として展示参

加、また、地域貢献の一環として「首里城祭」の「万国津梁の灯火」に協力して約1,000本のキャンドルを灯す等、社会貢献にも力を入れています。



## 音楽学部／各専攻近況

### 声楽専攻

平成24年度卒業生の8割が本学大学院、本学研究生、オペラ・スタジオ入所という演奏家として成長する進路を選んでおり、このことは学生が学部4年間に声楽に情熱を持ち、演奏家として成長することを希望したといえます。更に、地元の皆さまをはじめ全国的に聴いていただける公開形式で行われる奏楽堂ホールでの「学内演奏会(ソロ・オペラ)・「試験」を、全学部生が在学中に16回以上行う中で、演奏の喜びを体験した結果でもあるといえます。また声楽専攻では、自分の声と

他人の声の響きを唱和して一つの表現を創る「合唱」を、一人では成しえない大学ならではの学習の場と重要視しており、ソリストの歌唱技術向上にも「合唱」は効果的と考えています。各演奏実習後に学生自身で成長と反省が自覚できるように日頃の授業と演奏実習との効果的な体系化に努めてきており、そのオペラにおける成果は、昨年度よりドイツ・ワイマール歌劇場専属ソリスト契約の重島清香さん(H18修了)の活躍にも表れてきています

### 器楽専攻

第18回オーケストラ定期公演「北欧・ロシアの響き」を8月4日奏楽堂ホールで開催しました。台風接近のため急遽、日・会場を変更して行いましたが、外山雄三氏指揮のもと、シベリウス作曲《組曲カレリアより行進曲》、グリーグ作曲《ピアノ協奏曲》(ソリストはオーディションで選出された4年西野綾夏)、ショスタコーヴィッチ作曲《交響曲第5番》を熱演し好評を得ました。また、10月28日には第23回洋楽定期公演を管打楽コースが担当し木管・金管・打楽器アンサンブルおよ

びウィンドオーケストラによるプログラムを奏楽堂ホールにて開催しました。

【特別講座】として9月20日エルネ・シェベスティエン氏を迎え、リサイタルおよび公開レッスンを開催しました。長年ドイツ有数の楽団でコンサートマスターを務めた氏の演奏は豊かな音色、確立された演奏解釈によるもので、学生および学内外の聴講者を魅了しました。

### 音楽学専攻

音楽学コースでは、「三信遠」の地域概念、王府オモロの音楽、「夕霧七年忌」、村上水軍の「軍楽」などをテーマとした卒業論文が提出されました。毎年発行している音楽学研究誌「ムーサ」第14号では、御冠船踊りに関する連続シンポジウムの特集を組みました。定年退職される板谷徹教授の科学研究費補助金による共同研究の成果の一つです。

作曲コースでは、大学院修士作品と合わせ、2月9日(土)奏楽堂ホールにおける試演会が開催されました。3年次の課題は弦楽四重唱曲、一年間の研鑽の集大成である提出作品を非常勤演奏員による演奏で初演されました。(大学院近況を参照)

### 琉球芸能専攻

琉球芸能専攻では、年に1回の定期公演と共に2回の学内演奏会があり、近年は琉球芸能専攻の舞台公演の評価の高まりとともに、学外からの公演依頼が増えてきています。昨年度は、1月に沖縄県立美術館・博物館「新春の舞」公演、5月に平和祈念堂での「こども琉球芸能奉納」公演、「五芸術大学」大阪公演、8月には沖縄県全校種合同初任者研修「沖縄の伝統文化」公演、11月に多良間村移動大学「琉球芸能公演」等多くの公演依頼に応じて、全てに好評を博しております。

また、平成24年度両新聞社のコンクール受賞者は、舞踊・三線・箏

で16名おり、その内訳は、新人(6名)優秀(7名)最高(4名)グランプリ(1名)と合格し、関連楽器(笛・太鼓)でも3名が新人に合格しています。琉球芸能専攻学生は、目的意識を持って芸の向上に励み、切磋琢磨で学生生活を謳歌しています。



### 全学教育センター

全学教育センターで実施している教養教育の共通した目的は、次の3つの力を養うことにあります。1.コミュニケーション能力、2.論理的思考力、3.問題解決力。この3つの力を統合した力が「リテラシー」です。

全学教育が推進するリテラシー習得・向上のためのカリキュラムには、グローバル社会で通用するコミュニケーション能力の養成が含まれます。「国際語」である英語はもとよりドイツ語・フランス語・イタリア語・中国語といった言語の習得やその言葉の背景にある文化の理解は、多様な価値観を育み、視野を大きく広げてくれます。ここ数年

の間に海外の提携大学の数が増え、国際交流の機会は広がりつつあります。外国語のリテラシーを高めることで、国際交流が学生により身近なものになると考えています。

また、25年度からは新しく「アートマネジメント概論」が開設されます。この授業は、芸術に関わる者が芸術文化活動を続けていく上で必要な基礎的な知識と方法論を習得することを目的としています。

### 教職課程近況

本学では、「美術」「音楽」の中学校教諭1種免許状及び高等学校教諭1種免許状、「工芸」の高等学校1種免許状が取得できます。昨年度は、本学卒業生7名が教員採用試験にめでたく合格しています。将来の職業のオプションとして教職課程の履修を考えるのも良いと思いますが、「教職に関する科目」の単位だけでも34単位ありますから、履修するにはそれなりの決意が必要です。決していい加減な気持ちでなく、真剣に授業に臨むことが大切です。

近年、学生の基礎学力不足が叫ばれています。教師になるためには、単に音楽や美術の専門分野だけでなく幅広い教養が要求されます。専

門教科だけに優れていても、児童・生徒を理解できるわけではありません。幅広い教養があって初めて生徒理解にも繋がってきます。特に、本学教職課程では書く力を重視しています。在学中に総合教育科目もできるだけ多く履修し、新聞などにも目を通し文章力アップにも心がけてほしいと思います。

### 博物館学課程近況

平成24年度は17名の受講生が学芸員資格を取得しました。また博物館実習では、県内外15館に20名の実習生を送り、学芸員業務の実習を経験しました。実習で現場へ出ると、博物館が扱うのは資料つまり「物」だけではなく、来館者やボランティア等々の「人」との繋がりがいかに大切かを学ぶこととなります。頭の転換を余儀なくされ、また博物館を取り巻く社会を勉強し、実習生たちは一回り成長して帰って来ました。平成25年度は音楽学部の学生も資格を取得できるようになって4年目。

受講生が増え、幅広い専攻の学生が、資格取得に取り組んでいます。さらに博物館法施行規則の改正によりカリキュラムが変更され、より専門的に知識や技術を学べるようになっていきます。



## 大学院近況／修士課程

### 生活造形専攻

昨年11月から今年の2月まで、台湾新北市立鶯歌陶瓷博物館にて開催された「2012アジア現代陶芸—新世代の交感展」に陶磁器専修1年の杉山早苗さん、金城宙予さんの2名が作品を出品しました。この展覧会は、日本、韓国、中国、台湾、各国の美術系大学で陶芸を学ぶ大学院生と教員スタッフで構成したもので、各国は年度ごとに輪番制で主催国になり展示を担当します。台湾会場には約250点の作品を一堂に展示し、現在のアジアにおける陶芸の動向や多様性を感じるものでありました。今回の展覧会には台湾内外の観覧者が多数訪れました。今年度は日本での開催が決まり、6月に金沢21世紀美術館、8月には愛知県陶磁資料館を巡回する予定です。この展覧会にも陶磁器専修の学生が出品を予定していますので、近くにお立寄りの際にはご覧ください。



### 環境造形専攻

平成24年4月に沖縄県立芸術大学大学院と女子美術大学大学院が「教育・学術交流に関する協定」を締結しました。9月には両大学院生による、協定締結記念「大学院生作品展」が女子美ギャラリーアニク110周年記念ホールを会場に、本学から12名、女子美から19名の院生が出品参加しました。オープニングには教職員も参加し、展覧会は盛大に開催いたしました。女子美と本学とは深い関わりがあります。本学創立時から現在に至る

まで女子美に関係する教員から多くのお力添えをいただいております。12月には「教育・学術交流協定」締結によって開始した単位互換プログラムで女子美から水田有紀さんが、短い時間でしたが緑に囲まれた崎山キャンパスで学生と交流しながら石彫作品を制作しました。今年度も本プログラムの参加を希望する学生を受け付けております。

### 比較芸術学専攻

昨年度はサイパンやイタリア等、学生が積極的に海外へ調査・研究に赴いた年になりました。2月からは修士1年の加藤志帆さんが本校から初めてイタリアのミラノ・ピッコカ大学に留学します。また一昨年より青年海外協力隊としてキルギスに派遣されていた佐藤桃子さんも無事に帰国いたしました。10月には修士2年の小森智慧さんが「本歌取り論成立と藤原俊成」と

題し、美学会全国大会の若手フォーラムで研究発表を行いました。この他に、昨年に引き続き今年度も比較芸術学専攻の学生が松尾金蔵奨学生に選ばれました。この奨学金は芸術や哲学、社会学、史学等を学ぶ修士以上の学生に与えられる奨学金ですが、全国から選ばれた優秀な学生10数名程度しか受けることができません。その奨学生として本専攻の学生が2年連続で選ばれたことは大変喜ばしい事です。

### 舞台芸術専攻

舞台芸術専攻では、平成24年度の修士演奏に、4名の大学院生が公開審査を経て、修了しました。これまで学んできた集大成の場として研究テーマを基に、各々がプログラムに構成した内容は、伝統的な古典音楽や舞踊組踊の他、舞踊・組踊の復元(構成・演出振り付け)また復元演奏、そして創作舞踊・新作組踊などでした。多角的な視点から琉球芸能を考察研究した舞台発表は、其々の個性が生かされ、観客から絶大な好評を頂きました。近年、こうした修了生の作品が、国立劇場おきなわやマスコミ主催公演をはじめ、各市町村など様々な場所で再演の機会が増えています。大学のみならず、作品が広く県民に親しまれている事は大変喜ばしい事で、地域と連携した人材育成が期待できます。今年度も伝統文化の継承と発展をめざし、地域に根差した教育研究、そして社会貢献に向けて教員学生一丸となって取り組んでいます。



### 演奏芸術専攻

演奏芸術専攻では、本学オーケストラとの共演で「大学院一年生によるコンツェルト」を11月25日、12月15日の2回にわたって開催しました。R. シュトラウス：オーボエ協奏曲(Ob.大石栗江)、R. シュトラウス：ホルン協奏曲第1番(Hn. 竹内志織)、A. ジョリベ：打楽器と管弦楽のための協奏曲(Per. 小田代明音)、C.M.v. ウェーバー：クラリネット協奏曲第2番(Cl. 伊敷祐希)、C.W. グルック：オペラ「オルフェオとエウリデーチェ」より(Sp. 本間千晶)、G. ロッシーニ：「セビリアの理髪師」より「私は街のなんでも屋」(Br. 前田康博)、D. ショスタコーヴィッチ：

ピアノ協奏曲第2番(Pf. 又吉真理子)また、修士演奏では里 淳平(Kb.)がR. グリエール：タランテラ他、金久美結(Fl.)が武満徹：フルートのためのエア他、有銘優(Ob.)がモーツァルト：四重奏曲他、川村彩子(Pf.)がF. リスト：オーベルマンの谷他、金城吏美(Pf.)がP. チャイコフスキー：ドゥムカ他、遠藤麻子(Pf.)がJ. ブラームス：6つの小品集他、宮城愛(sp.)がG.F. ヘンデル：オラトリオ「メサイア」を院の集大成として研究成果を発表しました。

### 音楽学専攻

音楽学専攻では、1名の修了生(玉城幸)を送り出しました。修士論文の題目は「宮廷芸能とウスデークとの関係の考察—旋律及び芸態の比較より—」です。宮廷芸能と民俗芸能との関係について調査・分析し、歌三線の形成過程について明らかにしたことが、研究史に貢献する成果として高く評価されました。玉城さんは人物や学習態度も立派で、山本賞を受賞しました。

作曲専攻では、2月9日(土) 奏楽堂ホールに於ける試演会で作曲コー

ス学生と合わせ3名の作品(今年度提出作品として作曲された釜村僚一君、佐藤公昭君の3年次課題である弦楽四重奏曲2作品と、山田裕之君の修士作品「ヴァイオリン協奏曲」)が初演されました。一年間の研鑽の成果である作品が音になる瞬間に立ち会う緊張の場です。非常勤演奏員や学生の熟演が繰り広げられ、専攻を問わず多くの学生、卒業生が聴き入り、それぞれに新たな創意が促される夕べでした。山田君は修了時に山本賞を受賞、今後の活躍が期待されます。

## 博士課程

芸術文化科学研究科では、従来からの比較芸術学と民族音楽学研究領域に加え、今年度より芸術表現研究領域造形芸術研究室と同音楽芸術研究室が新設されました。この研究領域の2研究室は、かねてからの念願であった実技系博士課程に該当し、博士論文と研究作品または研究演奏によって、修了の審査と最終試験が行われます。修了者には「博

士(芸術学)」の学位が授与されます。

芸術表現領域の開設に伴い、学則をはじめ履修方法にも改正を行いました。25年度の芸術文化科学研究科入学生3名は、それぞれ3研究領域に1名ずつであり、学生も教職員も新たな気持ちで新年度を迎えています。博士課程の学生による、フレッシュな活躍にご期待ください。

## 附属研究所近況

附属研究所では、両学部協力のもと、沖縄県立芸術大学移動大学を行っています。第5回目となる今年度は、11月17日、18日の両日「沖縄県立芸術大学移動大学 in たらま」を多良間村立多良間小学校で開催しました。

今回の移動大学では、参加者が多くの教室を体験できるようなプログラムを工夫した結果、受講生の満足度も大きいことがアンケート結果から分かりました。附属研究所共同研究員、音楽学部非常勤講師や琉球芸能の学生が活躍し充実した内容となりました。琉球芸能公演では、多良間村の児童生徒による八月踊りの演目の中から4演目が披露されました。本学からの琉球芸能と多良間村の伝統芸能を比較することができ、たいへん興味深い公演が行われたとともに相互の交流も行えました。

多良間村教育委員会の大きな協力も成功の重要な要素でしたが、移動大学が本学に求められている地域貢献としてふさわしいと認識を新たにしました。

また、昨年度は平田太一文化観光スポーツ部長プロデュース「じんぶ

んキャンパス～アースマネジメント講座」が毎月開催され、沖縄県内外から多彩な大物ゲストによる講演が行われました。



## 附属図書・芸術資料館近況

(図書館)

平成24年度末で、図書が和書52,458冊、洋書14,082冊、合計66,540冊、雑誌が和雑誌1,461種、洋雑誌101種、合計1,562種、楽譜7,490冊、視聴覚資料(DVD、CD等)が7,136点の資料を所蔵しています。平成24年度の利用実績としては、開館日数214日、利用者数22,079人、貸出数7,326冊となっています。

(芸術資料館)

平成24年度末で、貴重資料172件、卒業生買上作品122件、合計294件の芸術資料を収蔵しています。貴重資料の内訳は、絵画50件、彫刻18件、陶芸34件、染織47件、デザイン8件、漆器4件、楽器1件、その他3件となっています。平成24年度の利用実績としては、展示会開催回数36回、展示室利用日数243日(資料閲覧、博物館補講含む)、展示会観覧者数12,756人となっています。

## 助成金獲得状況

### 《科学研究費》

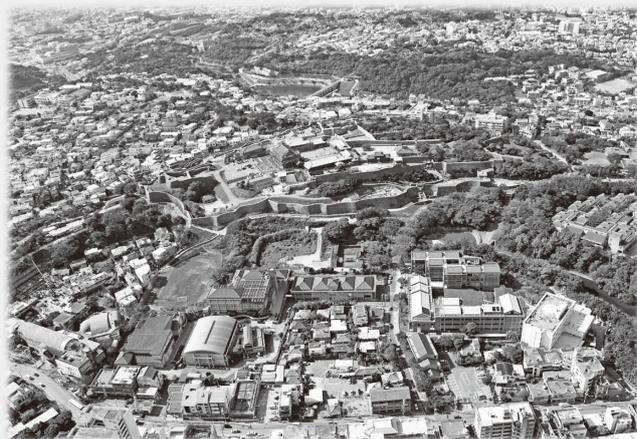
金城 厚	沖縄奄美民族資料のデジタル化と民族音楽の変容に関する歴史研究
久万田 晋	20世紀沖縄の芸術諸領域の文化論的研究
古謝麻耶子	モザンビークの国家形成と芸術文化政策
波照間永吉	鎌倉芳太郎資料画像統合データベースに基づく発展的研究
高瀬 澄子	「管絃音義」の研究
上山 典子	リストと彼の一派による「新ヴァイマル協会」—未来音楽、新ドイツ派との関連
土屋 誠一	沖縄戦後における美術に関する環境整備に向けた文献資料データベースの構築
近藤 春恵	琉球古典音楽の実技教育における音楽基礎能力の養成方法

### 《公益信託 宇流麻学術研究助成基金》

女子美術大学との教育・学術交流実行委員会  
(実行委員会：河合勇作・山田聡・名護朝和・赤嶺雅・高崎賀朗・上葛明広・平戸貢児・他)  
「国内美術大学間交流を通じた大学院教育の実践的考察および女子美術大学との教育・学術交流協定締結記念交流事業」

### 《沖縄県立芸術大学教育研究支援資金》

河合 勇作	沖縄県立芸大・女子美術大学交流展
柳 悦州	移動大学を通じた地域貢献に関する研究
豊田喜代美	日本の情報に依る西洋オペラ作品
A.P.ジェンクス	研究者による戦争体験談出版



平成24年度 受賞者状況

絵画専攻

- 古謝茜(大学院2年)秋季創画展・佐藤太清美術展【入選】
- 平良優季(大学院1年)佐藤太清美術展【入選】
- 大森敦子(大学院2年)全国美術大学奨学日本画展【入選】
- 高橋みか(学部3年)全国美術大学奨学日本画展【入選】
- 高岡秀樹(学部3年)全国美術大学奨学日本画展【入選】
- 但馬真琴(学部3年)全国美術大学奨学日本画展【入選】  
春季創画展【入選】
- 濱口真央(卒業生)独立展【入選】 沖展【奨励賞】

彫刻専攻

- 河原主佑(非常勤講師)第65回沖展【準会員賞】
- 玉那覇英人(卒業生)第65回沖展【準会員賞】
- 津波夏希(修士2年)第65回沖展【奨励賞】
- 吉田俊景(非常勤講師)第65回沖展【奨励賞】
- 大塚泰生(卒業生)第65回沖展【うるま市長賞】
- 平敷傑(学部2年)第65回沖展【沖縄教育出版賞】
- 福長香織(非常勤講師)第11回大分アジア彫刻展【優秀賞】
- 玉那覇英人(卒業生)第41回沖縄県芸術文化祭【知事賞】
- 阿部賢亮(学部4年)国際瀧富士美術賞

デザイン専攻

- 大城愛香(院2年)  
TOYOTAボルテ販促用ラッピングデザイン【デザイン採用】  
沖縄げんべい島ぞうりデザインコンテスト【準グランプリ】  
EVバス愛称・ラッピングデザイン【特別賞】
- 塩谷美夏(院1年)  
全国合板1枚作品コンペ(一般の部)【日本合板工業組合連合会会長賞】  
日本クラフト展学生部門【入選】  
沖展グラフィックデザイン部門【入選】
- 末吉由佳里(学部3年)  
oasia 沖縄かりゆしウエアテキスタイルデザインコンペ【グランプリ賞】
- 内間桃花(学部3年)沖縄げんべい島ぞうりデザインコンテスト【グランプリ賞】
- 石川めい(学部3年)沖縄げんべい島ぞうりデザインコンテスト【グランプリ賞】
- 嘉陽菜な子(学部3年)Wedysデザインコンペ【優秀賞】
- 冨田セスクリスチャン・山口安紗美・田代志乃・小波津有依・黒潮かな(学部2年)  
学P 2012沖縄リーグ【ベストパフォーマンス賞】
- 山内真央(学部2年)琉球ガラスデザインコンテスト【入選】
- 濱口南子(学部1年)第16回「コミックイラストコンテスト」【入選】
- 長浜翼輝(学部1年)「暮らしは歴史」沖縄の現代生活の写真【お菓子のポリシェ賞】

器楽専攻

- 傍嶋彩乃(学部4年)第2回(2010年開催)岐阜国際音楽祭コンクール  
管楽器部門【第3位】併せて【文化人特別賞】受賞
- 小野登充(学部4年)第36回 tys 山口県学生ピアノコンクール大学部門【金賞】  
併せて【毎日新聞社賞】受賞
- 川上一道(卒業生)第81回日本音楽コンクール第1位及びナカミチ賞を受賞

工芸専攻

- 染織
  - 比嘉春香(大学院1年)2012京展【入選】
  - 小泉美里(大学院1年)第67回新匠工芸会公募展【入選】
  - 深水沙由理(卒業生)第67回新匠工芸会公募展【奨励賞】
  - 神谷あかね(卒業生)第64回沖展【入選】  
第86回国展【入選】  
第22回全国染織作品展【入選】
  - 久田彩夏(卒業生)第22回全国染織作品展【入選】
  - 島袋知佳子(卒業生)第64回 沖展【入選】
- 陶芸
  - 久保田千尋(学部2年)第35回 沖縄県工芸公募展【育成部門】【新人賞】
  - 今井梓(学部3年)第35回 沖縄県工芸公募展【育成部門】【新人賞】
  - 金城宙矛(大学院1年)沖縄そば碗グランプリ【沖縄工業技術センター賞】
  - 金城彩子(大学院2年)第65回沖展【沖縄教育出版賞】
  - 本田伸明(卒業生)第35回沖縄県工芸公募展【一般部門】【優秀賞】
  - 山田サトシ(教員)第65回沖展【入選】

音楽専攻

- 増田勇人(学部2年生)  
第45回新報音楽コンクール声楽部門一般の部【第一位】(琉球新報社主催)
- 金城理沙子(学部1年生)  
第66回全日本学生音楽コンクール北九州大会本選第三位入賞(毎日新聞社主催)

琉球芸能専攻・舞台芸術専攻

- 琉球新報琉球古典芸能コンクール
  - 徳田泰樹(学部1年)三線【優秀】
  - 矢部克也(学部1年)三線【新人】
  - 仲嶺良盛(学部1年)三線【優秀】
  - 澤岬安優(学部1年)三線【優秀】
  - 亀井美音(学部2年)舞踊【優秀】
  - 米須秀仁(学部2年)箏【新人】
  - 又吉恭平(学部3年)箏【優秀】
  - 新城唯子(学部4年)舞踊【新人】
  - 新城唯子(学部4年)笛【新人】
  - 真栄城由依(学部3年)舞踊【最高】
  - 山里静香(学部4年)舞踊【新人】
  - 山里静香(学部4年)笛【新人】
  - 豊里美保(大学院2年)三線【最高】
  - 兼島翔子(大学院2年)舞踊【最高】
- 沖縄タイムス伝統芸能選考会
  - 嘉数幸雅(学部2年)太鼓【新人】
  - 親川遙加(学部2年)三線【優秀】
  - 玉城知世(学部2年)三線【優秀】
  - 仲松佳恋(学部3年)三線【最高】
  - 細川拓実(学部4年)三線【グランプリ】

**西銘順治賞** 美術工芸学部：上原ちはる・児玉愛・宮城冨生・國分美佐紀・外間ゆきこ・国吉春香

音楽学部：佐藤菜穂・小早川由利・新城唯子

**山本正男賞** 造形芸術研究科：金城彩子・大川ひろみ・大城愛香・小森智慧

音楽芸術研究科：浦崎えりか・玉城幸・山田浩之

平成25年3月卒業・修了生 主な就職先

【県内】

- ・株式会社 Summer Time Studio / デザイナー
- ・エマエンタープライズ / 企画営業
- ・(株)国建 / まちづくり計画部
- ・ココスアイランド / Mac オペレーター
- ・安木屋 / 企画 Web
- ・ミュージックプラザ / ピアノ講師
- ・特別支援学級 / 臨時教員
- ・浦添市児童センター / 厚生員
- ・浦添市役所 / 一般行政職
- ・県立芸術大学 / 助手(教育補助)
- ・沖縄県貸金職員

【県外】

- ・書道教室 / 書道教室助手
- ・雅織工房
- ・株式会社 MCS / 企画
- ・ヤマハ音楽振興会 / ピアノ講師
- ・音楽教室 / 講師
- ・熊本銀行 / 総合職
- ・株式会社パル / 販売職
- ・金沢卯辰山工芸工房 / 専門職
- ・SDA東西学園 / 教師

## 国際交流

### 姉妹校留学(7カ国、地域10校)

- 福建師範大学(中国) ○中国音楽学院(中国) ○ミュンヘン国立造形芸術大学(ドイツ) ○ブレーメン国立芸術大学(ドイツ)
- C.モンテヴェルディ音楽学院(イタリア) ○University for the Creative Arts(イギリス) ○チェンマイ大学美術学部
- ミラノ・ピッコカ大学(イタリア) ○国立台北芸術大学(台湾)
- インドネシア芸術大学デンパサール校パフォーミングアーツ学部(インドネシア)

## 留学生名簿(受入)

### 博士課程

呉 海寧

芸術文化学研究科 比較芸術学

波照間 永吉教授

### 修士課程

司 舵

造形芸術研究科(彫刻専修)

上條 文穂教授

### 研究生

蔡 宜樺

造形芸術研究科(彫刻専攻)

波彦野 泉教授

蕭 牧民

造形芸術研究科(彫刻専攻)

上條 文穂教授

鄭 文瑜

音楽芸術研究科(音楽学専修)

金城 厚教授

### 科目等履修生(沖縄県海外移住者子弟留学生)

高江洲 ヘシケ ジュリア さおり

音楽学部(琉球芸能専攻)

比嘉 康春教授

## 留学生紹介

### 沖縄県立芸術大学大学院 芸術文化学研究科 後期博士課程 3年 呉 海寧(ゴ・カイエン)

中国から参りました呉海寧と申します。言葉も気候も違い、距離的にはるかに離れている沖縄には、私にとってなぜか距離感を全然感じないのです。むしろ、初めてきたときから、ずっと一種の親近感を覚えています。

私は中学校から日本語や日本の文化に興味をもつようになり、高校卒業後に日本への留学を決心しました。日本の古い文献は漢文で書かれているように、日本と中国の、文学やさまざまな領域での共有文化につよく魅かれたため、学部で日本古典文学を専攻しておりました。2010年4月から県立芸術大学芸術文化学研究科の博士課程へ進学しました。

沖縄での留学生活はとても有意義で、専門知識の勉強以外、さまざまな人と出会い、いろいろな面で勉強ができ、自分自身にとっても大きな成長でした。留学経験によって、異文化を尊重する姿勢を持つようになり、また日本文化を専攻してきており、他文化をしっかりと理

解できる自信を持っています。日本、ことに沖縄の固有の歴史と文化に親しんできました。自らにとっての異文化としての日本・沖縄の文化を地域文化として尊重する姿勢をつくりあげ、比較文化論的な視点を獲得して研究を進めております。

沖縄は、かつて中国明、清の冊封国であった琉球国として、独特な歴史や文化背景を持っています。しかし、古くから中国と盛んな交流史をもった沖縄は中国の人々にあまり知られていません。そこで私は、沖縄の歴史や文化を中国の人々に伝え、文化共有意識をもたらしたいと思っています。そのために、博士課程では、もっと専門知識を勉強し、自分自身の能力を高め、研究成果を積み重ねていきたいと考えています。そして、とくに日本、沖縄の文化を中国へ紹介し、専門的な知識を伝播し、有意義な文化交流に貢献できる研究者を目指して頑張っていきたいと思っています。

## 同窓会ニュース

同窓会より、ご挨拶と活動状況を申し上げます。平素より同窓会へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本会は年々会員が増加しており、活動がより充実しつつあります。今後更なる卒業生の交流や大学との連携がスムーズになればと考えております。役員会を毎月開催しており、運営や企画、情報交換を行っております。時には学生時代を思い出し、懐かしく話をする役員もおります。

昨年は10月20日奏楽堂において“大人の芸大祭2012”復帰40周年記念コンサート『音楽シーンでつづる Loo-Choo OKINAWA のキセキ』を開催致しました。このイベントは本学の卒業生が出演し、卒業後の活躍を学生や県民の皆様方に紹介するという内容です。琉球・沖縄社会を象徴する「音楽」をテーマに、企画・プロデュースを音楽学部音楽学専攻1期卒の三島わかなさん(現本学非常勤講師)が行い、琉球王国として沖縄県のあゆみを跡づける「響き」を会場内の皆様方に味わって頂きました。出演者も卒業生だけでなく在校生にも協力して頂き、更にゲスト出演として喜屋武幸雄氏(ロック)与世山澄子氏(ジャズ)にもご出演頂きました。舞台上では美術工芸学部の卒業生が表現する映像・画像・絵画等が投影され、音楽との融合を図ったこれまでにない舞台空間となりました。

また、11月18日に開催されました第32回全国豊かな海づくり大会“美ら海おきなわ大会”において本学オーケストラが式典音楽に出演するに伴い、協力を致しました。大会事務局と沖縄県、企画会社と審議を進め、本会がオーケストラ出演者に対しマネージメントを行いました。当日は天皇・皇后両陛下をお迎えしての式典でしたので、出演者の皆様にはご理解とご協力をお願い申しましたところ、演奏中天皇陛下がオーケストラ方向をご覧になってご鑑賞されたとのことでした。出演者の皆様におきましてはとても良い経験をされたのではないかと思います。

私たち卒業生はそれぞれの人生を歩んでおります。そこには“芸術”というカテゴリの中で生きる、芸大卒業生だけに通ずる“想い”というものがあるような気がします。

これは芸術に携わる者にある特有の価値観であり、学部や専攻を越えて共有される意識だと思えます。そのような意識が同窓会発足に繋がっております。今後も活動の輪を広げさらに盛り上げていきたいと考えております。

これからも同窓会へのご理解・ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

山内昌也(会長：音楽学部琉球芸能専攻3期卒)

学内ニュース

沖縄県立芸術大学在学の宇良康一郎さんが、3月23日・24日開催された第19回おきでんシュガーホール新人演奏会オーディションにおいてグランプリを受賞しました。

そして5月19日に、おきでんシュガーホール新人演奏会に出演いたします。

現在、沖縄県立芸術大学器楽専攻管打楽コース4年在学中  
 第41回新報音楽コンクール管楽部門高校の部第2位  
 第38回沖縄県高等学校音楽コンテスト金賞  
 第19回おきでんシュガーホール新人演奏会  
 オーディショングランプリ受賞

これまでにクラリネットを渡久川千佳、村井祐児、横井操、松本健司の各氏に従事。



器楽専攻管打楽コース  
宇根 康一郎

沖縄県立芸術大学平成19年大学院修了の川上一道さんが平成24年第81回日本音楽コンクールで第1位及びE.ナカミチ賞を受賞しました。

現在、山形交響楽団で首席クラリネット奏者  
 平成17年卒業、器楽専攻管打楽コース12期生  
 平成19年大学院修了  
 第81回日本音楽コンクール第1位、E.ナカミチ賞受賞



平成19年大学院修了生  
川上 一道

沖縄県立芸術大学振興財団ニュース

平成24年度に助成した主な事業は次のとおりです。

- ①沖縄県立芸術大学の教育・研究活動に対する助成として教員退任記念展、高校生のサマースクール、那覇市立病院100点の絵画展、美術関連ワークショップ、東日本大震災関連シンポジウム開催への助成。
- ②沖縄県立芸術大学学生への助成として16名の奨学金給付、五芸祭参加、公立大学学長会議ワークショップへ学生派遣への助成。

- ③地域社会の芸術文化の振興のため、沖縄県高等学校文化連盟への助成。また、本財団は公益法人制度改革に伴い、平成25年度に財団法人から公益財団法人へ移行を予定しております。

退任あいさつ

本学との縁は、23年前、伊砂利彦先生(奏楽堂の織帳をデザインされた)に非常勤講師として誘われました。思いがけず常勤として来る事になり、それを知った伊砂先生は大変喜ばれ、沖縄への熱い思いがあったのか私を病院に呼ばれいろいろとこんな事して来て欲しいと遺言のように頼まれた。

繋のつもりで工房を閉じ、新匠会の役職を辞して単身芸大にきました。アツと云う間の3年、何処まで思いが・・・?校舎の移転もあり作業場作りには少しは役にたったかな。京友禅の繁栄と裏返を見に来た私は伝統とは守るものではなく良き所は吸収し未来に向かって「攻め、生きる」事だと考えます。沖縄の紅型が、未来に向かって輝きますように。

教授 吉田匡廣

私が県立芸大に勤めてから、いつの間にか25年が過ぎました。様々な学生と関わりを持ち、刺激を受けることも多くありました。私が学生から影響を受けたように、学生も私からなにかしらを受け取ってくれたらと思っています。退任してからも芸大祭や卒展、学生や卒業生の個展等観てゆこうと思っています。皆様のご精進を願ってやみません。

最後になりましたが先生方、事務職員の皆様お世話になりました。お礼を申し上げます。

教授 西村立子

壺屋の伝統を背負い、その技術や技法を教える事ができ、又私自身も共に学ぶ事ができた事は、とても有意義な25年だったと思います。首里城というすばらしい環境の近くで登り窯が焚ける大学は全国でもめずらしく、県立芸大ならではの誇りに思いました。これからも芸大の発展を祈ります。

教授 島袋常秀

いろいろな出来事があった7年足らずの在職期間でした。大学を去る者として一言。「建学の理念」と、「県民の税金で運営されている県立大学」という2つの原点のうえに、本学が県民の大学としてより一層充実・発展していくことを願っています。

教授 安里進(全学センター)

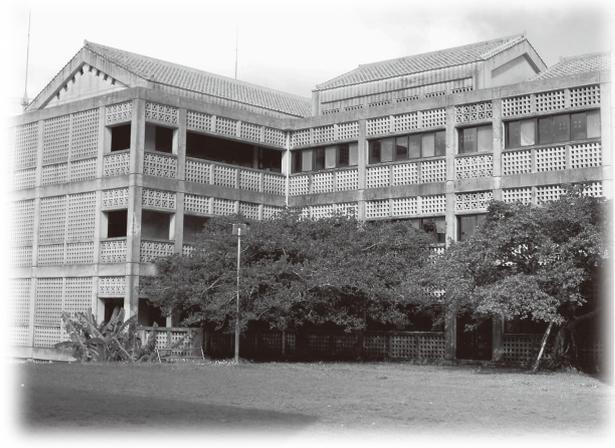
平成4年からの本学での教員生活を終えます。お世話になりました。有り難うございます。心残りはこの大学のことです。力を蓄え、魅力をつけ、沖縄の牙城としてすっきりと立ってみたいと思います。

教授 板谷徹

沖縄芸大に赴任して、約3年はあっという間でした。在任中は崎山キャンパスへの移動、漆芸分野の設立等に関わることができ良い経験になりました。そして、学生や先生方とお会いできたことそしてお教えいただいた数々のことを含め私の一生残る大切な財産と思っています。

約3年と短い期間ではありましたが、本当にありがとうございました。

助手 崎原克友(工芸)



## オープンキャンパス案内

芸術大学に進学を希望する人達を対象に、本学の教育活動と環境の一端を知っていただけるようオープンキャンパスを開催します。各学部、専攻・コースの紹介、演奏体験、施設見学、授業内容の説明、

在学生との懇談会、個別相談会等さまざまな企画を用意しております。詳細はホームページ<http://www.okigei.ac.jp/>、チラシをご覧ください。

沖縄県立芸大オープンキャンパス					
美術工芸学部 平成25年8月1日(木)		音楽学部 平成25年8月1日(木)			
時間	正午～午後5時	時間	午前9時30分～午後5時30分		
受付	正午より当蔵キャンパス一般教育棟3階・大講義室	受付	午前9時より当蔵キャンパス奏楽堂		
時間	当日受付(事前手続きは不用です)	申込み	7月1日(月)～7月26日(金)〈開催当日も可〉		
主な日程	全体説明(12時30分～)		声楽専攻・器楽専攻・音楽学専攻		
	絵画専攻・芸術学専攻	彫刻専攻・デザイン専攻・工芸専攻	9:30 声楽専攻・器楽専攻・音楽学専攻	琉球芸能専攻	
	当蔵キャンパスツアー	崎山キャンパスツアー	10:00	楽典概説	楽典概説
	専攻個別説明会	専攻別説明会	11:00	ソルフェージュ体験実習	施設見学・琉球芸能鑑賞会
	個別相談会	個別相談会	午後	各専攻・コースによる演奏体験等	実技指導および講評等
	個別相談会に自主作品を持参できます。専攻説明会はカリキュラム説明、実習室見学、作品紹介、在学生との懇談が計画されています。他専攻の説明会にも参加できます。キャンパス間のシャトルバスが運行されます。			午後6時30分より器楽専攻による室内演奏会	

## 平成25年度 公開講座案内(受講料無料 <http://www.okigei.ac.jp> をご覧ください。)

### 附属研究所文化講座(受講料無料、<http://www.ken.okigei.ac.jp>)

「宮古の歴史と文化」	4月～7月、毎週水曜	全15回	定員100名
「織物入門講座」	10月～11月	全5～6回	定員10名
「国際貢献と地域文化」	平成25.12月～平成26.2月	全8回	定員30名
「元沖縄県副知事の体験談(仮)」	10月15日～11月5日	全3回	定員100名

### 附属研究所移動大学(受講料無料、<http://www.ken.okigei.ac.jp>)

移動大学 in 久米島	12月21日～22日(予定)	久米島町で開催決定
-------------	----------------	-----------

### 美術工芸学部芸術学専攻 教養講座

美術工芸学部 「小・中・高等学校教員の夏期公開講座2013」 版画講座・・・8月上旬開催。  
美術工芸学部 「高校生のサマースクール2013」 油画、日本画・・・8月上旬開催。

### 音楽学部

冬期音楽基礎講座	12月22日
----------	--------

### 音楽学部

高校生のためのサマースクール	8月(予定)
小・中・高教員のための音楽夏期講座	未定
中学生・高校生のための音楽基礎・土曜講座	未定

申込方法については、本学ホームページをご覧ください。

平成25年度 附属図書・芸術資料館 展覧会情報

日 程	展 覧 会 名	展 示 室			
		第1展示室	第2展示室	第3展示室	
4月	3日(水)～ 8日(月)	「春の夜の夢」(工芸専攻(染織)院2年グループ展)	○		
	3日(水)～ 8日(月)	「ふるさとの特産品開発展(仮)」(デザイン専攻3年)		○	
5月	15日(水)～ 19日(日)	「ドローイングコミュニケーション 2013(仮)」	○	○	○
	24日(金)～ 29日(水)	「但馬真琴個展(仮)」(絵画専攻4年)		○	
6月	7日(金)～ 12日(水)	「吉川由季恵個展(仮)」(絵画専攻4年)		○	
	20日(木)～ 25日(火)	「(笑)展」(デザイン専攻3年グループ展) 「ネガポジ展」(デザイン専攻3年グループ展)	○	○	
7月	12日(金)～ 21日(日)	「彫刻の五・七・五一かたちで詠む奥の細道一」	○	○	○
	26日(金)～ 30日(火)	「化粧品デザイン展(仮)」(デザイン専攻准教授 笹原浩造)	○		
		「上原優美個展(仮)」(デザイン専攻院2年) 「とぅっ」(工芸専攻(陶)3年グループ展)		○	○
8月	14日(水)～ 19日(月)	「デザイン工芸学科造形基礎及びモデル写真展」	○	○	○
9月	21日(土)～ 26日(木)	「高江洲淳子個展(仮)」(デザイン専攻講師(臨))		○	
10月	26日(土)～ 11月4日(月)	「自主企画展(仮)」(附属図書・芸術資料館)	○	○	○
12月	13日(金)～ 23日(月)	『版と言葉』展(絵画専攻)	○	○	
1月	8日(水)～ 16日(木)	「2013年度 退任記念展」	○	○	○
	25日(土)～ 29日(水)	「院1年、3年生展(仮)」(彫刻専攻)	○	○	○
2月	1日(土)～ 5日(水)	「工芸三年生展(仮)」(工芸専攻)	○	○	○
	14日(金)～ 18日(火)	「第25回 卒業・修了作品展」(美術工芸学部)	○	○	○
3月	2日(日)～ 7日(金)	「油画2・3年生展(仮)」(絵画専攻)	○	○	○

平成25年度 演奏会案内

日 程	演 奏 会	日 程	演 奏 会
4月	19日(金) 学内演奏会(管打楽コース)	11月	6日(水) 学内演奏会(管打楽コース)
	20日(土) デュオ・レゾナンス デビューコンサート		8日(金) 学内演奏会(器楽専攻)
	26日(金) 学内演奏会(声楽専攻)		10日(日) 学内演奏会(【院】院生ソリスト)
5月	10日(金) 学内演奏会(管打楽コース)		19日(火) 学内演奏会(声楽専攻)
	29日(水) 学内演奏会(ピアノコース)		22日(金) 学内演奏会(器楽専攻)
6月	6日(木) 学内演奏会(管打楽コース)		27日(水) 学内演奏会(ピアノコース)
7月	10日(水) 学内演奏会(弦楽コース)	12月	4日(水) 学内演奏会(声楽専攻)
	12日(金) 学内演奏会(琉球芸能専攻)		5日(木) 学内演奏会(【院】声楽専修)
	13日(土) 学内演奏会(【院】管弦打専修)		14日(土) 学内演奏会(【院】院生ソリスト)
	19日(金) 学内演奏会(【院】声楽専修)	1月	15日(水) 学内演奏会(【院】声楽専修)
	23日(火) 奏楽堂演奏会(J,S,パッサ「ヨハネ受難曲」)		17日(金) 学内演奏会(琉球芸能専攻)
31日(水) 学内演奏会(【院】ピアノ専修・管打楽専修)	24日(金) 修士演奏(舞台芸術専攻)		
8月	1日(木) 学内演奏会(器楽専攻)	25日(土) 修士演奏(舞台芸術専攻)	
	5日(月) オーケストラ定期演奏会(奏楽堂・器楽専攻)	28日(火) 学内演奏会(声楽専攻)	
9月	28日(土) 奏楽堂演奏会(ワーグナー生誕200年記念演奏会)	1日(土) 修士演奏(管弦打楽専修)	
10月	3日(木) 学内演奏会(声楽専攻・【院】声楽専修)	4日(火) 修士演奏(ピアノ専修)	
	5日(土) 奏楽堂演奏会(ジャズ・コンボとジャズ・オーケストラの響き)	6日(木) 修士演奏(声楽専修)	
	19日(土) 洋楽定期演奏会(奏楽堂・ピアノコース)	8日(土) 作曲作品試演会(作曲コース)	
	20日(日) 琉球芸能定期公演(名護市民会館)	22日(土) 室内楽定期演奏会(奏楽堂・器楽専攻)	
	21日(月) 学内演奏会(管打楽コース))	3月	7日(金) 卒業演奏会(琉球芸能専攻)
22日(火) 学内演奏会(声楽専攻)	8日(土) 卒業演奏会(声楽・器楽専攻)		
23日(水) 学内演奏会(弦楽コース)			